

2023

3. 8 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_HePJmNzQTW-FC0Q_-VoCyw

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

生物多様性の見える化・DX化の可能性とその危険性

司会：錢 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

3D モデル

DX

メタバース

ワイルドネス

フィールドワーク

鹿野 雄一 研究員

一般社団法人九州オープンユニバーシティ



京都大学理学部・理学研究院にて学士号・修士号を取得、その後 2 年間日本各地で生物写真撮影と山スキーをした後、学界に戻り、三重大学生物資源学科にて博士号を取得しました。その後、九州大学に赴任し、断崖生態学、エコインフォマティクス、保全生態学に関わり、特にモンスーンアジアの水生生物調査のフィールドワークに携わりました。現在は、一般社団法人九州オープンユニバーシティにて、オープンサイエンスを掲げて幅広い活動をしています。

近年あらゆる分野で、「DX」、「メタバース」、「AI」、などのキーワードの元、革新的なデジタル技術が実装し始めています。生物多様性科学の分野も例外ではありません。発表者は、これまで水生生物を中心に、生物多様性情報のデータベースの構築とデジタルアーカイブ、そして「生物多様性の見える化」を進めてきました。近年は特に、生物標本の 3D モデル化に力を入れており、これは DX とも非常に相性のいいコンテンツであるため、国内外から大きな反響を得ました。本発表ではこれらの取り組みのポジティブな可能性を探るとともに、「身体性」や「野性」を失いつつある現代社会におけるネガティブな危険性についても検討します。